

# みなとっぷ

地域の魅力を地元から発信

Takanawa Community News Magazine

2025年11月

Vol. 56

## 高輪地区情報紙

三田4・5丁目・高輪・白金・白金台

発行:高輪地区総合支所 協働推進課

編集:みなとっぷ編集室

<https://www.city.minato.tokyo.jp/takanawachikusei/takanawa/koho/saishin.html>



木々が織りなす多彩な紅葉

### 国立科学博物館附属 自然教育園の紅葉

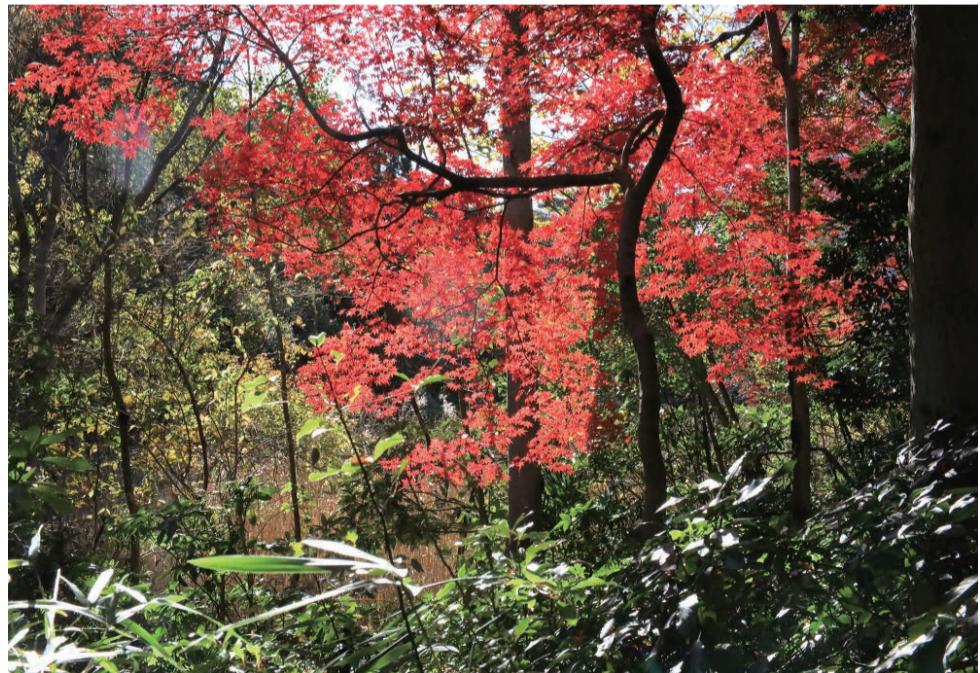
自然教育園の紅葉は高輪地区の紅葉スポットの一つです。例年、11月下旬から12月下旬、イロハモミジ、オオモミジ、ケヤキ、ムクノキ、エノキ、ムクロジの紅葉やイチョウなどの黄葉が見られます。

「このもより かのも色こき 紅葉かな」—与謝蕪村

紅葉は日本の美の象徴の一つとして、古くから和歌や俳句などの題材に多く取り上げられています。

この美しい紅葉を見に、自然教育園を訪れてみませんか？

(写真/平尾 文/安藤)



森の小道の紅葉

## CONTENTS

- P2 冬の醍醐味「イルミネーション」 P4/5 地域のあしあと  
P3 この街にこの人あり 戦中・戦後の高輪  
ソプラノ歌手・雨谷麻世さん P6 北里研究所と美術のお話  
「新千円札の図柄を描いてみよう」

- P6 TAKANAWA HOP WAY通信  
P7 HEALTH ウェルネス体操  
BUDO 高輪警察署 少年柔道・剣道教室  
P8 区からのお知らせ

# だいごみ 冬の醍醐味 イルミネーション

猫がこたつで丸くなり、人の動きも鈍くなる季節。外に出るのがついおっくうになってしまいますが、寒さで澄んだ空気の中、冬にしか見られない景色に浸るのはいかがでしょうか？  
寒空の下、心がほっこりするイルミネーションを探しに行きましょう！

※写真は、前年以前のものも含まれています。

## 地域交流の架け橋に「Takanawa共育プロジェクト」

平成24(2012)年に始まった東海大学品川キャンパスの地域交流・活性化活動「Takanawa共育プロジェクト」(TKP)。そのきっかけとなったのは、学生たちのクリスマス・イルミネーションでした。現在二十数名が参加して、今年も11月中旬から12月25日(予定)の間、キャンパスを彩ります。

正面広場の中心に彩られるクリスマスツリーはもちろんのこと、その左側にある1号館への渡り廊下も華やかな光に包まれ、その下の階段も美しく飾られます。ここは外からは見えない穴場になっていますので、ぜひ中に入ってご覧になることをお勧めします。

沿道には、雪ダルマのサンタさんがほほ笑んで、地域の皆さんや通り過ぎる人々の心を癒やす存在となっており、二本榎通りの風物詩として親しまれています。



地域の方も楽しみに…



ほほ笑むサンタさんたち

## 江戸の“月待ち”が原点「竹あかり」と「クリスマスツリー」



竹あかりとクリスマスツリー  
今年のイメージ画像



観音堂を照らす竹あかり

かつて海も望めた高輪で、旧暦の1月と7月の26日に月をめでた江戸の人々。この両日は、「廿六夜」と呼ばれ、数ある月待ちの中でも、特に幸運が得られる新月の日として、大勢の人が月の出に願いごとをしたといいます。これを現代によりみがえらせようが始まったのが、グランドプリンスホテル高輪の「竹あかり」です。

山門・鐘楼などが点在する日本庭園で、400以上もの竹細工が織りなす幻想的な空間。長寿と繁栄の象徴ともいわれる竹に、時に絢爛、時にほのかな明かりが施され、癒やしをくれる和のイルミネーションとなっています。

また、11月中旬から12月25日まで(予定)の間には、竹あかりによるクリスマスツリーが登場し、竹と光の柔らかな調和が心を豊かにしてくれます。幽玄の世界で月を眺めるかのような、安らぎとともに、心がじんわりと温かくなる気がしてきます。このゆったりとした時間に身を委ねる幸せを楽しみたいものです。

## Do For Others(他者への貢献)の精神がともす光

高輪警察署から桜田通りを渡ったすぐ右側にある「明治学院記念館」前の芝生広場。明治23(1890)年に完成したこの場所に、初めてクリスマスツリーが立てられたのは、平成17(2005)年のこと。20年目を迎える今年も、令和7(2025)年11月14日(金)の点灯セレモニーから翌年1月6日(火)までの間、高さ約11mのモミの木が約1万3000個の電球で包まれます。点灯はセレモニー翌日より毎日16時30分～22時30分を予定しています。

本来、“自分が持っているよいものを、まわりの人と分かち合う”というクリスマス。「寒さの中でも、ご覧になって、温かい気持ちを持っていただければうれしいです」と、ご担当の方は言います。「白金の丘に根深く記念樹の立てるを見よや」(明治学院校歌より)の明かりが心を照らしてくれるでしょう。



点灯セレモニー



記念館とクリスマスツリー

冬の楽しみもいろいろありますが、気持ちを温かくしてくれる数々の光で、ひとときの幸せに身を委ねてみるのはいかがでしょうか？

# この街にこの人あり

あまがい まよ  
雨谷 麻世さん（ソプラノ歌手）

## プロフィール

東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。「魂を揺さぶる究極のクリスタル・ヴォイス」と各界から絶賛される、国内外で活躍するクラシカルクロスオーバーソプラノ。『徹子の部屋』、『NHK歌謡チャリティコンサート』、『とくダネ!』などに出演。「全国植樹祭」で天皇・皇后陛下の御前で君が代を独唱。オリジナルソング『僕にできること』が小学5年生の音楽教科書に掲載。令和6(2024)年は三十三間堂で初の奉納コンサートに出演するなど神社仏閣での活動も数多く、令和7(2025)年は戸隠神社、増上寺で奉納コンサートを開催。ライフワークのチャリティコンサートは今年で29年目、110回を超えた。

## 「環境と子ども」をテーマに 110回を超えるチャリティーコンサートを開催

世界的なソプラノ歌手で、「環境と子ども」をテーマに、チャリティーコンサートを開催している雨谷麻世さんにお話を伺いました。

### ●歌手としてのご自身について

#### —どのような経緯でソプラノ歌手になられたのですか？

テレビを見ていて、小さい頃から歌手になりたいと思っていました。父も母も音楽関係ではなかったのですが、小学生の時からピアノを習っていて、中学・高校は、音楽系の学校(北鎌倉女子学園)に入りました。そこで、声の質にくせがないので東京藝術大学に向いていると言われ、声楽科に入りました。当時声楽科は1学年60人ほどで、そのうち20人がソプラノでしたが、現在歌手を生業としている人はほとんどいません。

#### —クラシックに限らず、いろいろな音楽分野の歌を歌われていますが、意識されていますか？

そうですね。ジャンルに関わらず自分の好きな歌を歌っています。クラシカルクロスオーバーといいまして、インドのヒンディソング、フランスの歌曲、日本の童謡、世界や日本のポピュラーソングなど、いろいろな分野の歌を多様な言語で歌っています。クラシック音楽の歌手は、一般的にマイクを使いませんが、私はマイクを使って歌うこともいといません。



戸隠神社奉納コンサート、拝殿にて

### ●コンサートの開催について

#### —コンサートはどのように企画されますか？

私は、芸能界やクラシック音楽界の団体、事務所には所属していません。知人などのご協力のもと、自分自身ですべて企画を行ってきました。雑用も行うのでとても大変でしたが、今は、娘と母(90歳)が手伝ってくれています。娘はアートディレクターとしてポスターのデザインなどを担当して

います。

#### —チャリティーコンサートはどのような内容ですか？

平成8(1996)年より、自身のライフワークとしてチャリティーコンサートを始めました。平成14(2002)年からは「環境と子ども」をチャリティーのテーマにし、文部科学省・環境省・林野庁が後援に加わり、通算110回を超えるました。

「子ども」をテーマにしたコンサートでは、「ルーマニアのエイズに苦しむ子供たち」、「モンゴル・マンホールチルドレン」、「JHP・学校をつくる会(カンボジア)」、「神奈川新聞厚生文化基金『交通遺児』」、「東日本大震災で被災した子どもたちを救う」などをテーマにして行いました。

「環境(緑化)」をテーマにしたコンサートでは、厳島神社、吉備津神社、鶴岡八幡宮、比叡山延暦寺、三十三間堂、増上寺などの歴史的建造物を会場として歌いました。

#### 中でも、厳島神

社は会場が海の中にあるので、機材や観客席の椅子などを船で運ぶのでお金がかかります。ある程度来ていただかないと開催できません。心配していましたが、地域の方々のご協力で約800人の方に来場していただきました。

緑化活動では、横浜国立大学の名誉教授である宮脇昭先生と一緒に、「鎮守の森」をコンセプトとした講演と歌のコンサートを開催しました。

「全国植樹祭」では、天皇・皇后両陛下の前で2回歌いました。1回目は森の歌『僕にできること』を歌い、2回目は『君が代』を歌いました。雨が降っていて、ぬれながらアカペラで歌いましたが、厳かな雰囲気で気持ちがよかったです。参加者には透明のかっぽを着て、聴いていただきました。

#### —クラシックコンサートで思い出に残るのは？

ザルツブルク八重奏団と共に演し、エルネスト・



ショーン作曲の『終わりなき歌』を歌いました。素晴らしい曲でした。また、佐渡裕指揮・東京都交響楽団と共に演し、ジョゼフ・カントルーヴ作曲の『オーヴェルニュの歌』を歌いました。

#### —『僕にできること』は、小学生の教科書にも掲載されましたね

はい。私が歌うオリジナルソング『僕にできること』が音楽教科書(小学5年生・教育芸術社)に掲載されました。その年、『徹子の部屋』にも出演させていただきました。

### ●高輪地区やご自身のことについて

#### —高輪地区についてどんな印象をお持ちですか？

高輪地区に住んで20年になります。白金氷川神社にはよく行きます。夜、近くを散歩しています。高輪地区には坂やお寺があり、緑に恵まれ、街もきれいで、とても気に入っています。近くのスーパーで買い物もします。

#### —普段、心がリラックスすることは何ですか？

人と接してお話しすることです。新しい方と交流すると、必ず学ぶことがあります。人のつながりを大切にしています。今の私があるのも、協力していただいている皆さんのおかげです。

#### —地域の未来を担う子どもたちへ、伝えたいことはありますか？

のびのびと、自由に考えてください。心の声に従い、自分のやりたいことをやりとげる、自分の進む道は自分で決めるという気持ちを大切にしましょう。

### ●取材を終えて

著名で実績もある音楽家にもかかわらず、とても気さくにお話ししていただきました。高輪地区でも、コンサートの開催が実現できたら、という気持ちになりました。

## 雨谷 麻世

### クリスマス・チャリティ・ディナーショー!

●日時：令和7(2025)年12月17日(水)

開場18:00 開演18:30～

●会場：セルリアンタワー

東急ホテルボールルーム

詳しくはホームページをご覧ください



## ◆折原 榮一さん(94歳)



白金志田町に生まれ、8歳から白金一丁目に引っ越し、現在は白金一丁目再開発のため、仮住まいの折原栄一さんから、山の手空襲による白金地区一帯の被災と自宅焼失の様子や、終戦後まもなくの工場再建、そしてその後の高度経成長期における家業発展の様子について、お話を伺いました。

### 山の手空襲による

#### 白金地区一帯の被災と自宅の焼失

私の父は白金一丁目で、電気関係のネジなどを製造する町工場を経営し、工場兼自宅を兼ねていました<sup>①</sup>。近所には町工場やそこで働く住み込みの職工さんもたくさんいました。

13~14歳の頃、昭和20(1945)年5月24日の山の手空襲で白金地区一帯は被災し、自宅も焼失してしまいました。空襲の時、父は仕事の関係で自宅を不在にしており、母、姉、私の3人で高輪警察署近辺まで逃げました。白金地区は大半が焼失しましたが、近所の知り合いなどで亡くなった人は少なかったようです。

その中で悲しい出来事がありました。父の工場の雇い人の2人が、翌日25日に明治通り沿いの坂で爆弾の直撃を受けて亡くなり、近所の皆さんで廃材を積み上げ、茶毬(だび)に付したことを覚えています。身近な人で空襲で亡くなったのはこの2人だけでした。

自宅焼失後は、家族4人で二子玉川に借りていた家に避難しました。自宅の建屋は焼失しましたが、風呂はタイル張りで鉄製の窓だったため焼け残り、焼け出された近所の皆さんが廃材を燃やして風呂をたき、露天風呂気分で利用したとのことで、大変感謝されました。電気や水道は比較的早く復旧し、そんなに不便を感じたことはなかったと記憶しています。

### 終戦後まもなくの工場再建

父は芝浦にあった、立ち退いていた工場の建物部材や機械などを持ってきて、昭和21(1946)年には工場を再建しました。戦後復興はとても早かったですね。その後は、朝鮮戦争の特需などがあり、電気製品や電線用の部品生産で忙しくしていました。戦前・戦後を通して、この地区には金属の旋盤工場(ネジ製造)やメッキ工場など関連する工場が多く存在し、自動車産業や電気・機械産業の発展とともににぎわいを見せています。



昭和34(1954)年当時の四ノ橋付近。ビルがなく遠くまで見渡せる

出典:高輪今昔物語

### 高度経成長期の家業の発展

東海道本線の東京から大阪間の全線電化のお手伝いもしました。途中の周波数の切り替え(50Hzと60Hz)が必要で、スイッチなどの需要が結構多かったです。また、昭和39(1964)年の東海道新幹線開通のお手伝いもしました。日本経済の発展に大いに寄与できたとの自負があります。

港区役所(高輪地区総合支所)からは、白金地区一帯が「町工場発祥の地」であることから、町工場の存続や再建をしてほしいとの要望が強いのですが、後継者難や環境問題などでその存続や再建はとても困難だと思います。私も残念ながら令和5(2023)年に廃業しました。

### 白金地区再開発への関わり

現在進行中の白金一丁目西部中地区第一種市街地再開発事業では、平成17(2005)年から令和7(2025)年までの20年間、理事長を務めました。私はこの地区の住人・地権者の一人として完成が楽しみです。



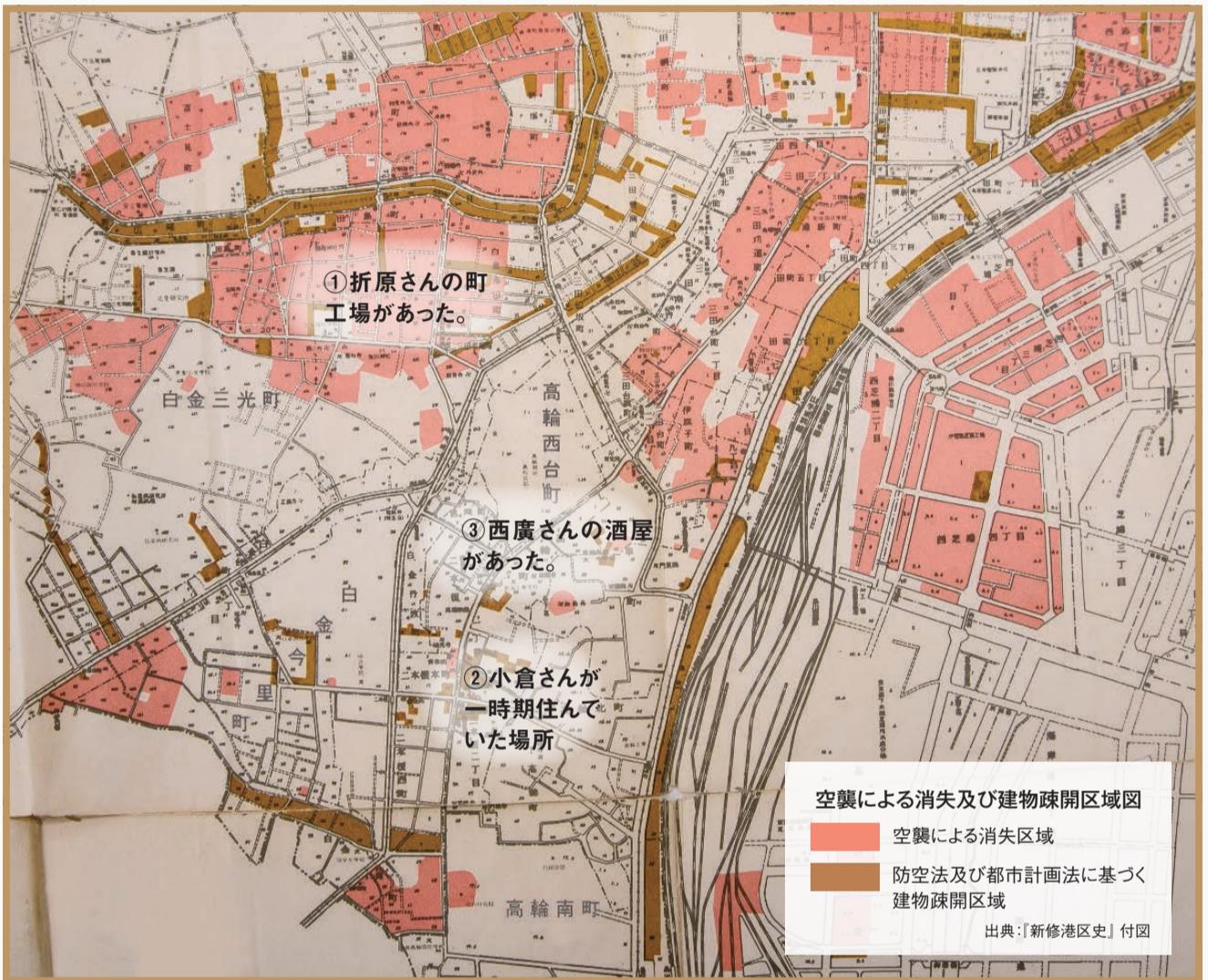
昭和37(1962)年当時の古川橋交差点。都電が走っているのが見える

出典:高輪今昔物語

# 地域のあしあと

## 戦中・戦後の高輪

昭和20(1945)年、太平洋戦争の終戦から今年はちょうど80年になります。港区は世界の恒久平和と核兵器の廃絶を広く訴えるため、昭和60(1985)年8月15日に「港区平和都市宣言」を行いました。この高輪地区も大空襲などにより大きな被害を受けました。このような戦争を二度と起こさぬよう、戦争を体験した方々の記憶からその悲惨さを後世に伝えるために、戦中・戦後の体験談をまとめました。



## ◆小倉 剛さん(86歳)



戦後、芝二本榎本町にお住まいでしたが、現在高輪三丁目に移られている小倉剛さんに、恐ろしかった爆弾投下の体験と、疎開先の生活についてお話を伺いました。

### 空襲の時の爆弾投下の体験

昭和20(1945)年4月4日、東京で空襲を受けた時は大森の大井坂下町にいました。私は5歳で、祖母、父、母、姉、弟、お手伝いさんと一緒に住んでいました。当時大森は、いくつか軍需に関係する工場があったので、工場を狙った爆弾(焼夷弾ではない)が投下されたのだと思います。私が住んでいた家にも2発落ちました。

私の父の家は、広い敷地に母屋、母屋から10mくらい離れた所に築山のような防空壕、そして大きな池がありました。家族は、避難警報が発令されたので、防空壕に避難しました。幸い、爆弾は防空壕には直撃せず、母屋と池に2発落ちて、

ました。運がよかったです。

### 疎開先での生活

母の実家である芝二本榎本町の明治学院大学の前に住みました<sup>②</sup>。しかし、東京は危ないと言われ、栃木県佐野市飛駒町に疎開し、飛駒町で終戦を迎きました。

当時の飛駒町は田んぼがいっぱいあって、かんがい用水の小川がそこら中にあり、水がきれいで「ハヤ」という魚がいて、季節になると一面ホタルが飛ぶような、子どもにとって、素晴らしい田舎の生活の思い出ができます。

その後、現在の埼玉県志木市にあった父の親戚の家に行き、芝二本榎本町の家に戻ってきて、昭和21(1946)年に高輪台小学校に入学しました。そして50年前に、高輪三丁目に移りました。

5歳であっても、あの恐ろしい戦争体験は、今でもはっきり覚えています。



昭和30年ごろ、明治学院前の歩道橋付近から清正公方面を望み撮影したもの

みんなと結ぶ「へいわ」  
~港区平和都市宣言40周年~

## ◆西廣 保之さん(84歳)



高輪生まれ高輪育ちの慶應ボーイ、天神坂(高輪一丁目)で、かどや酒店を営まれていた西廣保之さんにお話を伺いました。

昭和20(1945)年当時は4歳だった西廣さん。戦後は地元に根ざした酒屋さんを続けられました。

### 空襲、疎開と終戦後の記憶

天神坂で父が酒屋を始めたのが昭和の初めでした<sup>③</sup>。昭和16(1941)年の開戦からすぐ父が出征して、戦時中は母たちが商売を続けていました。

空襲警報が出ると、現在消防署になっている伊達屋敷の入り口や宮様(高松宮邸)の防空壕に避難しました。昭和20(1945)年3月の大空襲では、下町の方が真っ赤になっていた子供たちながら覚えています。その後、白金一丁目あたりが燃える空襲もあり、今の小河内ダム(東京都奥多摩町)の下の方に住む父の友人の農家に、母、姉、私の3人で疎開しました。

高輪地区は多くが焼け残り、店も無事だったので、疎開先からは9月の中頃に帰ってきました。父も終戦前に内地に移っていたので、ほどなく復員してきました。

私は昭和23(1948)年に高輪台小学校に入りました。当時は空襲で焼けた御田小学校の児童もいて、60人学級が6組あり、学校全体でおよそ2000人。急ごしらえの増設教室や二部授業のことなどを記憶しています。

### 戦後の「かどや酒店」

戦後すぐの頃は、店ではお酒やみそなどの配給のほか、父がかつての酒問屋時代の顔で仕入れてくるお酒も扱い、これがお客さまに喜ばれました。このあたりでは天神坂の上にあった虎屋さんの所でお米の配給があり、行列が坂の下まで続いていました。

店では中古のオート三輪を買いました。リヤカーや馬車が主に使われていた頃、いち早く導入したオート三輪はお酒の運搬に大活躍しました。配達用には、補助エンジンを載せた自転車も使っていました。まちの酒屋の原点は、何と言つても配達の機動力ですからね。

### 高輪町榮会、そしてメリーロードへ

戦後復興期、天神坂や二本榎通り沿いには多くの商店が並び、何でもそろうようになります。

その後、現在の埼玉県志木市にあった父の親戚の家に行き、芝二本榎本町の家に戻ってきて、昭和21(1946)年に高輪台小学校に入学しました。そして50年前に、高輪三丁目に移りました。

5歳であっても、あの恐ろしい戦争体験は、今でもはっきり覚えています。



高輪町榮会の日曜朝市(昭和59年6月以降、左端の出店がかどや酒店さん)



清正公祭りで賑わう天神坂(昭和37年、撮影場所がかどや酒店さんあたりと思われる)



清正公祭りで賑わう天神坂下の交差点(昭和37年)  
出典:高輪今昔物語

た。清正公のお祭りには露店も出て、天神坂は大にぎわいでした。昭和30年代の建設ラッシュの頃、現場で寝泊まりする飯場がお酒を届けるお得意さまになりました。

商店街は、昭和20年代後半に高輪町榮会を立ち上げ、「8の日」の売り出しも始めました。このほか日曜朝市、二本榎通りを通行止めにしての綱引き、チンドン屋さんの行列などもありました。馬の背にあたる二本榎通りに向かって大勢のお客さまが坂を上っていく姿が思い出されます。

私は大学卒業後すぐに父の酒店に入り、いろいろと新しい取組をしました。東京でまだ知られていない各地の地酒や本格焼酎を他店に先駆け店に並べ、新たなお客様の拡大につなげました。

スーパーや安売り店との競争で商店街もモールチェンジが迫られました。20年ほど前、街路灯を設置し、商店街の名前を全国公募して、メリーロード高輪商店会になりました。

### 高松宮邸とのつながり

子どものころ、高松宮邸は遊び場で、隣の隙間から出入りしてもさく言わせませんでした。宮邸前の二本榎通りも車は少なく、手製のグローブで友だちと路上でキャッチボールをしていました。

うちの店が、宮邸のお台所や邸内にあった光輪閣という迎賓施設にお酒を納めていたので、宮様ご自身や働く方々と接する機会がありました。父に付いて光輪閣の調理場に行った時、作っていたアイスクリームの味見をさせてもらい、街中のものとは別格の味に驚いたことが印象に残っています。

店を継いでからもご縁が続き、宮様が毎年春に旧海軍の関係者を招いて開かれる花見の会では、錨のマークが入った酒樽の鏡開きをお手伝いました。

宮様がお亡くなりになった時は宮邸からお電話があり、お別れをさせていただきました。

# 北里研究所と美術のお話「新千円札の図柄を描いてみよう」

## ～科学とアートが出会うイベントを取材しました～

学校法人北里研究所北里柴三郎記念博物館と国立印刷局が連携し、8月23日(土)に北里大学白金キャンパスで行われたイベントを取りました。この催しは、大村智北里大学特別栄誉教授のノーベル賞受賞10周年を記念した連動企画です。定員を上回る応募があり、小学生の親子からご高齢の方まで、幅広い世代の20名以上が楽しい時間を過ごされました。

### ミニ講座／医学の礎を築いた北里柴三郎と「ヒーリングアート」の紹介

ミニ講座では、森孝之先生(一般社団法人北里柴三郎記念会/医学博士)が北里柴三郎の人物像や新千円札の意義と、大村智先生の始めた「ヒーリングアート」活動が病院に絵画を展示し、心を癒やす取組であると紹介されました。「治療が体を支えアートが心を支える」—科学と芸術はいずれも人々の幸せを願う点で深くつながっていると感じました。



和やかな空気の中にも集中した時間が流れます

### ワークショップ「マス目写し講座」

#### 紙幣を生む技を体験！

後半は国立印刷局工芸官による「マス目写し講座」。工芸官の研修でも用いられる技法で、実際の作品も紹介されました。「コピーでは再現できない表現を目指しています。紙の凹凸を感じながら1点1点を積み重ねることが紙幣の精緻な表現につながります」という言葉が心に残りました。

参加者は数種類のデザインから好みのものを選び模写に挑戦。

北里柴三郎の肖像画を選ぶ方が

多く、時間を忘れて書き込み、完成時には笑顔が広がりました。家族で「思った以上にうまく描けた」と声をかけ合う姿もあり、アートに向かう楽しさを共有するひとときとなりました。



見本の絵柄を見ながら、丁寧にマス目を写していきます

親子で挑む北里柴三郎博士の肖像画



### 工芸官の方に「新紙幣」と今後の仕事への思いを伺いました

20年振りとなる、令和6(2024)年7月の改刷は私たち工芸官の本懐の仕事で、実際に流通する姿を見ると大きな喜びを感じます。

新紙幣では、ユニバーサルデザインを向上させ、識別マークの判りやすさやホログラムの位置や形の工夫、料額数字の大型化、さまざまな色覚に配慮した色彩設計など、誰にでも使いやすい紙幣を目指しました。

キャッシュレス化が進む中で、伝統技術と歴史を大切に、新時代のニーズにも応えていきたいです。

イベント情報

好評につき、12月に同イベントが開催されます。

●日時：12月21日(日)午前 ●定員：各20名

※お申込み者多数の場合は、同日午後にも開催いたします。

科学とアートが響き合う瞬間をぜひご体感ください。



ご好評につき、満席となる可能性がございます。最新の予約状況は、公式サイトでご確認ください

(担当/大友、飯島、安藤、平尾)



令和7年度に初めて「TAKANAWA HOP WAY」に参加した株式会社コシダテックの総務部長 涌井博子さんほか、有志の皆さんにお話を伺いました。

平成26(2014)年に高輪に移転した当初より、地元に密着した活動に参加したいと考えていました。令和6(2024)年に、一般社団法人高輪ゲートウェイアマネジメントからのお誘いで、JR東日本高輪ゲートウェイ駅周辺の清掃活動に参加しました。ちょうどその時に声をかけていただいたのが「TAKANAWA HOP WAY」(高輪でホップを育てるコミュニティ活動)です。地域交流とともに社員同士の交流にもつながると判断し、令和7(2025)年2月に参加を決めました。

社内にそのことを伝えると、緑を育てることのよしろさに共感したグループ社員約30名が早速チーム結成し、「KOSHIDA FARMER」として活動を始めました。ホップの成長を社内インストラネットで共有し、「TAKANAWA HOP

## ホップと会話して、チームワークで育てる

WAY」の活動の一番の柱である「水やり」をスケジュール化しました。現在メンバーは47名です。

途中、地中のホップの根がコガネムシの幼虫に食べられるというアクシデントにもめげず、猛暑の中もホップの声を聞きながら、社員で協力し合った(守衛さんにも休日の朝晩手伝いいただいた)結果、「TAKANAWA HOP WAY」参加団体の中で一番早い6月中旬に大量のホップを収穫することができました。

社内では、「水やり」をした社員たちの「今日はツルがだいぶ伸びたよ!」という言葉で会話



すくすくと順調に育つホップ



「KOSHIDA FARMER」の皆さん

が生まれ、グループラインが活性化され、ホップの育成に必要な風通しのよさが、今では会社の風土にもなりつつあります。

皆で育てたホップで醸造したビールを年末恒例の「越年式」の乾杯で使うことが今の楽しみです。次年度は、プランターを増やそう!と考えているこの頃で、ますます「KOSHIDA FARMER」の活躍が楽しみになりました。

### 株式会社コシダテック概要

- 創業：1930年
- 事業内容：自動車関連、半導体、電子デバイス等
- 特長：2014年に新橋から高輪に本社を移転し、グループ会社を含めて約300人の従業員が従事

(担当/森、堀井、清水)



## 身体は好調、気分も爽快。 みんなで楽しく「ウェルネス体操」

「ウェルネス体操」とは、「心身共により状態を目指し、技術・精神、さらには人間性の向上を図る体操」といわれています。悪天候など以外、1年中無休で活動している現場にお邪魔しました。

目黒通り沿い、自然教育園の隣にある「白金台どんぐり児童遊園」に、毎朝6時すぎになると大勢の方々が集まっています。6時半からのラジオ体操と18種類の動作から成る中国の健康新体操、練功十八法の後、50名ほどでインド発祥の「笑いヨガ」を行います。そして五十木正さん(74歳)が指導される「ウェルネス体操(通称イカちゃん\*ストレッチ)」に、皆さん生き生きと取り組んでいます。※五十木さん



▲多くの方が元気よく

「イカちゃんストレッチ」は、五十木さんご自身が大病からの回復・養生のために始めたものに工夫を重ねてできたものです。五十木さんのもとには、肩甲骨を伸ばして歩行姿勢が良くなったり、明るく社交性が戻つて付き合いが楽しい、生きる力がみなぎるようになったなどの声が寄せられています。五十木さんは、「世の中に恩返しえきれば」と言われます。参加者の男性は、「この体操で学んだ呼吸法を日々の暮らしで意識的に行うことで、体によい作用があると思う」と教えてくれました。

また笑いを加えた「笑いヨガ」では、皆さんの笑顔が印象的でした。脳の活性化・免疫力アップなどには、「笑い」は欠かせません。



▲みんなでイカちゃんストレッチ



▲広々とした公園で、爽快に

年中無休のこの活動ですが、体を鍛えるだけでなく、心も晴れやかになり、仲間もできて社会参加の場にもなっています。ここを起点に同じ趣味の方々の集いや、災害時の助け合いなどへと広がりを見せています。

昔みたいに、みそやしょう油の貸し借りこそありませんが、現代の「長屋の付き合い」が、ここにあるように思いました。会費などもなく、どなたでも気軽に参加できます。いつでもイカちゃんが笑顔でお待ちしています。



皆さん  
お気軽に！

(担当／三富、安藤、真田、小坂)



### 高輪警察署からのメッセージ

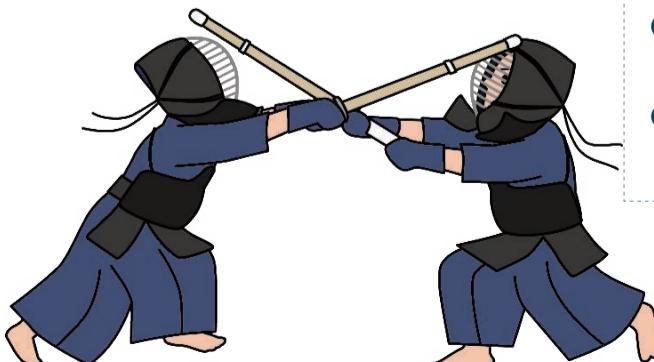
現在、警察官になりました特殊詐欺や、SNSを利用したロマンス・投資詐欺が急増しており、警察一丸となってこれらの犯罪の抑止・検挙に努めています。高輪署員も朝稽古などで汗を流して心身を鍛え、地域住民の皆さまからの期待と信頼に応えるよう、全力で高輪の安全・安心を確保していますので、今後も変わらぬご理解、ご協力をお願いします。



## こころとからだを鍛えよう ～高輪警察署 少年柔道・剣道教室～

今年で創設150年を迎える高輪警察署。朝には、稽古に励む署員の皆さんとの入った声が、階上から聞こえてくることがあります。こちらでは少年向けの武道教室も開催していると聞いて取材しました。

「高輪警察署では署員の朝稽古もありますが、夕方には小中学生を対象とした柔道・剣道教室をおよそ60年前から続けています」とのこと。長い歴史があります(現在の区民編集メンバーにも「卒業生」がいます)。これだけ長く続いている背景には、「少年の健全育成とともに地域とのコミュニケーションを図り、警察業務への理解や信頼を得て、治安維持に生かしていく」という想いがあります。

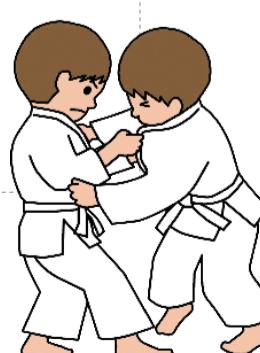


#### ●柔道教室

水・金曜日 17:00~19:00

#### ●剣道教室

火・木曜日 17:00~19:00



(担当/清水、三富、安藤)

## 区からのお知らせ



区公式X(東京都港区【地域情報】)では、地域のできごとをはじめとしたさまざまな情報を発信中。ぜひフォローをよろしくお願いします! @minato\_chiiki



## 区民参画型事業「ハガキと折り鶴で結ぶ「へいわ」」に参加してみませんか?

若者世代で構成する港区平和都市宣言40周年事業実行委員会が企画した区民参画型事業、「ハガキと折り鶴で結ぶ「へいわ」」に参加してみませんか?

この事業は、二つの取組で構成されています。

## ①ハガキアートで描く「へいわ」

あなたが思う平和や平和を感じる瞬間をテーマにして、ハガキサイズの用紙にイラストやメッセージを描きます。集めたハガキアートは、平和関連事業での展示や、平和都市宣言40周年事業で制作予定のモザイクアートの素材にします。



## ②「へいわ」の願いを込めた折り鶴の再生・循環プロジェクト

世界中から広島平和記念公園に届く折り鶴を再生紙に加工した再生おりがみで、平和の祈りを込めて再び折り鶴を作成します。この折り鶴を広島や長崎に捧げ、平和への想い・祈りを循環させることを目指します。

これらの取組は、区の平和事業のほか、下記期間中に区内の施設で実施しています。この周年の機会に、平和について考えてみませんか?

【実施施設】各いきいきプラザ、区民センター、男女平等参画センター

【実施期間】令和7(2025)年12月12日(金)まで

●お問合せ先 総務部 総務課 人権・男女平等参画係  
☎03-3578-2014



## 令和8年3月までオンデマンドモビリティ「みなのり」の実証運行を延長しています!



緑色の「みなのり」マークの車が目印です

## ●お問合せ先

「みなのり」カスタマーサポート ☎050-2018-0107(9:00~19:00)

みなのりホームページ

高輪消防団「区内消防団ポンプ操法大会」で優勝&準優勝!  
高輪消防署の管内「火災による死者ゼロ4000日」達成!

令和7(2025)年6月15日、港区立芝公園にて「第70回区内消防団ポンプ操法大会」が開催され、区内4消防団8チームが参加。迅速・確実な操作要領を競い合うとともに、訓練の成果を披露しました。大会では、高輪消防団・第一分団(高輪)が優勝＆2連覇達成! 第四分団(港南)は準優勝! 日頃の訓練成果を発揮し輝かしい成績を収めました。

また、高輪消防署の管内では、令和7(2025)年9月30日に「火災による死者ゼロ4000日」を達成しました! これは、地域住民皆さまの日頃の防火意識と、高輪消防団や関係機関の連携による賜物です。安全で安心なまちづくりのために、引き続き皆さまのご協力をお願いいたします! (担当/佐々木、小坂、安藤) 2連覇した第一分団



各支所で、地域情報紙(情報誌)を定期的に発行しています

- 芝地区総合支所「しばたぐ」
- 麻布地区総合支所「ザ・AZABU」
- 赤坂地区総合支所「MYタウン赤坂・青山」

- 高輪地区総合支所「みなどっぷ」
- 芝浦港南地区総合支所「べいあっぷ」

支所内各戸配布のほか、港区立図書館(高輪図書館分室を除く)・各いきいきプラザで閲覧することができます

本紙のバックナンバーは港区ホームページ(高輪地区総合支所のページ)からもご覧になれます。

みなどっぷ バックナンバー



## 編集だより

56号

## 区民編集メンバー

安藤 洋一(チーフ)	清水 徹夫
大友 登喜雄(サブチーフ)	田中 康造
飯島 真弓	平尾 敬一
川野 まりえ	堀井 由里子
小坂 靖浩	三富 和則
佐々木 智秋	村田 志織里
真田 晃	森 佳夫

※50音順

- ▶80年前の戦争体験をいろいろな方からお話を伺い、当時の大変な思いに感動しました。私も3歳だったので、戦争の記憶はありませんが、戦後すぐの食糧難だったころを思い出します。二度と、こんな体験はしたくないです。(安藤)
- ▶国立印刷局の工芸官の方へのインタビューを通じ、私たちが日常的に使用する紙幣は、額面以上の価値を秘めた工芸品であると実感しました。その1枚を生み出すために注がれる膨大な手間と卓越した技術に、圧倒されました。(飯島)
- ▶科学とアートが出会いイベントでは、国立印刷局工芸官の方々の精緻な模写技術の一端に触れ、貴重な体験ができました。(大友)
- ▶いくつかのチャリティコンサートや、京都の十三間堂での奉納コンサートなどで独唱され、ご活躍されているソプラノ歌手の雨谷麻世さん。お忙しいなか、インタビューに、明るく丁寧に応じてください、感謝でした。(川野)
- ▶ウェルネス体操は、児童遊園付近の美容室の方や、高輪支所地域以外の方にも関心を持っている人がいました。ポンプ操法大会について、高輪消防団第一分団の2連覇、第四分団準優勝は立派です。(小坂)
- ▶区のお知らせ、高輪消防団、高輪消防署の記事を担当しました。私自身が消防団員です。操法大会に向けた訓練は数か月に渡り、道路や公園をお借りして実施しています。また、高輪消防署の管内「火災による死者ゼロ4000日達成」は、平成26(2014)年から11年にわたる記録となりました。どちらも、地域の皆さまのご理解、ご協力、ご支援があってこそ

※この情報紙は、区が公募し応募のあった地域住民と、区との協働でつくられています。

結果であり、地域の皆さまに心から感謝を申し上げます。これからも地域の皆さまとともに、安心安全なまちを守っていきたいと思いますので、高輪消防団、高輪消防署の活動へのご理解、ご協力、ご支援を何ぞぞよろしくお願い申し上げます。(佐々木)

▶高輪に根ざした地元の商店と高松宮邸のご縁について、たいへん興味深いお話を伺うことができました。(真田)

▶コシダテックさんにお邪魔しました。ホップは涼しい気候で育つものと思っていましたが、猛暑の東京でもなんて。皆さんのご努力が感じられました。(清水)

▶戦争の記憶を残し、かつ次の世代に生かす努力をすることが、戦後世代の責務と強く思いました。(田中)

▶早朝は体操でスッキリ、夜はイルミネーションでほっこり。ぜいたくな時間はいかがですか?(三富)

▶港区育ちのホップの味わいやいかに? きっとコシダファーマーさんたちの愛と地道な努力がしみることでしょう。都会でもこんな形で土に根ざした地域とのつながりってとても素敵だなと思いました。(堀井)

▶今まで、地元の企業の方とほとんど面識がありませんでした。今回、ホップを通じてゆっくり話ができ、知り合いになることができました。素敵な機会に恵まれました。(森)



買い物するなら  
地元の  
商店街で

毎週水曜日は午後7時まで受付

※取扱業務は限定されます。  
事前にご確認ください。

区民課窓口サービス係 ☎5421-7612 / 保健福祉係 ☎5421-7085